

【2020年度/専門科目領域/専門科目群/福祉心理学科】

科目名	ナンバリング	区分 (必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
精神保健福祉援助演習 I		必修 (精) 選択 (社.心)	2	3	後期
担当教員	研究室	電子メール ID		オフィスアワー	
水野 拓二	講師控室	kyoumu		授業終了後に質問等受付	
授業の目的・概要	<p><目的>精神保健福祉士がソーシャルワーカーとして求められる基礎的な援助技法や知識について、演習形態で学ぶことで理解を深め、身につける。視聴覚資料や現場に即した事例を活用することで精神障害者の生活や生活上の困難について把握し、精神障害者の特性を踏まえたソーシャルワークおよび援助技術の展開を学び、理解を深める。さらに、地域を意識した相談援助の展開についても学ぶ。</p> <p><概要>ソーシャルワーク実践における基本的な対人援助技術や方法などについて、現場に即した具体的な事例を用いた援助場面を設定してロールプレイ等での演習を通して、個人やグループでの知識や技術の習得を目指す。</p>				
学習上の助言	精神保健福祉専門科目の講義と精神保健福祉援助実習を結びつける授業でもあるため主体的、能動的に授業に臨む姿勢が求められる。				
教科書	精神保健福祉援助演習 (基礎・専門) 第2版 (新・精神保健福祉士養成講座8) /編: 日本精神保健福祉士養成校協会/中央法規出版 (2016)				
参考書	特になし				
学生が達成すべき行動目標				関連卒業認定・学位授与方針	
①	対人援助の際の具体的な援助技法や知識を理解し、説明することができる。			社精(1)(2)	
②	コミュニケーション技術や情報収集、記録について行うことができる。			社精(1)(2)	
③					
④					
⑤					
⑥					
授 業 計 画					
回	学習内容等	授業方法	学習課題・学習時間 (時間)		
1	授業オリエンテーション、授業概要や学習方法の説明。	登校型授業 講義	演習についての目的、意義について教科書で確認する。	4	
2	自己理解と他者理解について①を学習する。 ロールプレイでの演習。	登校型授業 講義・演習	前回の内容を教科書や授業内容を基に復習する。	4	
3	自己理解と他者理解について②を学習する。	登校型授業 講義・演習	前回の内容を教科書や授業内容を基に復習する。	4	
4	専門職の価値と倫理について①を学習する。	登校型授業 講義・演習	前回の内容を教科書や授業内容を基に復習する。	4	
5	専門職の価値と倫理について②を学習する。 現場に即した事例を用い、価値と倫理を学ぶ。	登校型授業 講義・演習	前回の内容を教科書や授業内容を基に復習する。	4	
6	利用者理解の実技について①を学習する。 現場に即した事例を用い、当事者理解を深める。	登校型授業 講義・演習	前回の内容を教科書や授業内容を基に復習する。	4	
7	利用者理解の実技について②を学習する。 現場に即した視聴資料で理解を深める。	登校型授業 講義・演習	前回の内容を教科書や授業内容を基に復習する。	4	
8	援助関係形成の実技について①を学習する。 現場に即した事例を用い、ロールプレイでの演習。	登校型授業 講義・演習	前回の内容を教科書や授業内容を基に復習する。	4	
9	援助関係形成の実技について②を学習する。 現場に即した事例を用いロールプレイでの演習。	講登校型授業 講義・演習	前回の内容を教科書や授業内容を基に復習する。	4	
10	コミュニケーション技術について学習する。 現場に即した事例を用い、ロールプレイでの演習。	登校型授業 講義・演習	前回の内容を教科書や授業内容を基に復習する。	4	
11	面接・相談技術①について学習する。 現場に即した事例を用い、面接・相談技術を学習する。	登校型授業 講義・演習	前回の内容を教科書や授業内容を基に復習する。	4	
12	面接・相談技術②について学習する。現場に即した事例を用い、面接・相談技術を学習する。	登校型授業 講義・演習	前回の内容を教科書や授業内容を基に復習する。	4	
13	記録の技術について学習する。 現場に即した事例を用い、記録の実際を学習する。	登校型授業 講義・演習	前回の内容を教科書や授業内容を基に復習する。	4	
14	個人に対する相談援助①の理解について学習する。 ロールプレイ等で相談援助の理解を深める。	登校型授業 講義・演習	前回の内容を教科書や授業内容を基に復習する。	4	
15	全体を振り返りまとめと事後学習とのつながりに向けて学習する。	登校型授業 講義・演習	前回の内容を教科書や授業内容を基に復習する。	4	
試					

【2020 年度/専門科目領域/専門科目群/福祉心理学科】

達成度評価							
総合評価割合 (%)		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	合計
		0	0	0	0	100	100
総合力指標	知識・技術力	0	0	0	0	10	10
	思考・推論・創造する力	0	0	0	0	20	20
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	15	15
	発表・表現伝達する力	0	0	0	0	15	15
	コミュニケーション力	0	0	0	0	20	20
	取組みの姿勢・意欲	0	0	0	0	20	20
	問題を発見・解決する力	0	0	0	0	0	0
評価のポイント						フィードバックの方法	
評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点					
試験	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
レポート	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
成果発表	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
ポートフォリオ	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
その他	①	✓	授業への出席をきわめて重視し、毎回の演習授業への参加姿勢と貢献度、授業終了時に提出してもらうリアクションペーパー等の記載内容等で総合的に評価する。				演習授業の達成度評価の指標に合わせた評価票を学生毎に作成し、教員が評価する。
	②	✓					
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
備 考							
<p>なお、今後の新型コロナウイルス感染症の社会情勢によって再度シラバスの変更が行われることもある。 全 15 回が登校授業（対面授業）であるため、大学が示した感染症予防対策の指針を遵守すること。感染症予防対策の観点から、教員の指示に従わない行動をとった場合には受講を認めないことがある。その場合、授業は欠席として取り扱う。</p> <p>教員の実務経験：精神医学ソーシャルワーカーならびに精神保健福祉士として 26 年の相談援助業務経験。 実践的授業の内容：従来の授業では教科書に沿った一般的事項を教え、教科書の事例を示していた。 本年度は現職である教員が実際の相談援助業務から実践した事例を示し、その事例から精神障害者の生活や生活上の困難について把握し、精神障害者の特性を踏まえたソーシャルワークおよびソーシャルワーク実践における援助技術の展開を学習する。 事例から個人を特定できるような情報提示はしない。</p>							